

公的研究費の適正な管理・監査について

令和2年1月28日(火)
国立大学法人研究担当理事・副学長協議会

研究費の不正使用防止に向けた文部科学省の取組

平成26年2月【ガイドラインの抜本的強化】

データのねつ造、研究費の不正使用等の事案が相次いで発生し、社会問題化していたことを受け、平成26年2月、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」(平成19年 文部科学大臣決定)を改正。

○改正のポイント

研究機関としての取組を抜本的に強化

- ・コンプライアンス教育の受講や誓約書の提出の義務化
- ・不正に対する懲戒を機関内規程で明確化（私的流用の場合は刑事告訴があり得ることも明示）
- ・業者からの誓約書提出の義務化・発注した研究者と独立した検収体制の構築 等

国としての取組(モニタリング)を強化

- ・全研究機関に対し、27年度から毎年度、国が改正ガイドラインへの対応状況を確認
- ・改正ガイドラインへの対応が不十分な研究機関には、間接経費を段階的に削減し、最終的には研究費の配分を停止 等

平成27年4月～【改正ガイドラインに基づく取組の実行段階へ】

改正ガイドラインに基づく体制整備の対応準備期間(26年度)が終了し、27年度より取組の実行段階へと移行。

○不正防止に向けたPDCAサイクルの確立・徹底(毎年度実施)

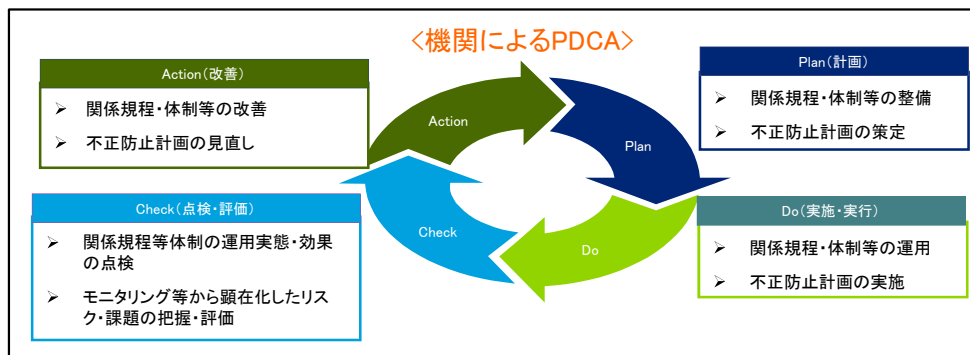
<文部科学省が毎年度行う調査・是正指導>

- ・全研究機関(約2,000機関)の対応状況の確認・分析
(体制整備等自己評価チェックリスト)
 - ・当該分析結果を踏まえて選定した機関に対し、履行状況調査の実施
- 令和元年度 43機関実施

→ 対応が不十分な機関に対しては、段階的に間接経費の削減等の措置

<文部科学省が必要に応じて行う調査・是正指導>

- ・「機動調査」「特別調査」「フォローアップ調査」



○研究機関への情報提供

- ・研究機関に対する研修会等の実施(毎年度10回程度)
- ・研究機関での取組に資するべく、不正事案の文科省HPIにおけるわかりやすい内容での公開
- ・公的研究費に係る不正事例(研究機関におけるコンプライアンス教育用)(平成28年3月)を作成・公開
- ・履行状況調査における主な取組事例(抜粋)(平成26～29年度)を作成・公開

全ての研究機関において不正防止体制を構築

最近の研究機関における不正使用事例(令和元年度:令和元年12月1日現在)

No.	機関名	不正の種別	不正使用額	不正が行われた年度
1	広島大学、東京大学、 人間文化研究機構	旅費の重複受給 旅費の虚偽請求	9,996,934円	H23~30
2	大分大学	旅費の重複受給 旅費の虚偽請求	1,021,670円	H25~30
3	立教大学	カラ謝金、旅費 の虚偽請求	906,810円	H27~30
4	広島大学	カラ謝金	143,800円	H26,29
5	北海道大学	カラ給与	291,666円	H28

CASE:1 旅行先からも旅費を重複して受領したり、報告書等を偽造した事例(1, 2, 3)

普段の精算時に、出張報告書と関係書類により、**事実確認**を行うことが重要。

➡さらに、内部監査時には、抜き打ちによる先方へのヒアリングで、出張状況の確認。**航空機半券の運賃種別**の確認を実施し、**実施結果を周知することで効果的に牽制することが重要。**

CASE:2 研究室内の上下関係を利用し、学生を巻き込んだ事例(3, 4, 5)

日々の作業実態の確認を研究室任せにならないようにすることが重要。

➡さらに、コンプライアンス教育を教員だけでなく、学生にも実施すること。内部監査時には、謝金・給与受給者に対するヒアリングで、業務内容に関する指示や、業務の確認方法について確認を行い、**実施結果を周知することで効果的に牽制することが重要。**

研究費不正を起こさせない環境づくり

1. コンプライアンス教育の充実・強化

□研究者及び事務職員の意識改革

研究費は公的資金ではなく「自分のお金」だと思い込んでいる研究者の認識を改めさせること。事務職員は、「研究者及び自機関を守る」という意識を持つこと。全ての構成員が、研究費不正による信頼損失が「大きな損害」という意識を持つことが必要。

□形骸化しているコンプライアンス教育の見直し

研修会やeラーニングにおける教育内容を充実させ、適切なタイミングで内容を更新することで、最新の研究費不正に関する手法や、機関の経費執行ルールを理解させることが必要。

2. 内部牽制の効果的な実施

□内部監査結果を学内の隅々まで周知徹底する工夫

内部監査は自浄機能を持つ重要なものであり、その結果は内在しているリスクを顕在化させたもの。内部監査結果を機関内で周知を図り、類似事例の再発防止を徹底することが重要。

□監事機能の強化

重要な情報は、監事と適切に共有した上で、実効性のある監査の実施が重要。

□日々の業務における事務局による確認の重要性

事務局の管理・監査体制がしっかりしていれば防げた研究費不正もあるのではないか。事務職員の専門的能力を高めつつ適切なチェックが働くような事務体制の整備が重要。

3. その他

□全学一体的な不正防止策・・・部局毎の縦割りを無くして全学共通の仕組みへ

□法人カード、旅費支払いの外注化・・・本人が立て替えなくても済む仕組みの導入

文部科学省によるモニタリングについて

○履行状況調査

「体制整備等自己評価チェックリスト」提出機関の中から一定数を抽出し、ガイドラインに基づく体制整備・運用の状況について把握するために実施している履行状況調査を行い、43の大学等を調査しました。

多くの大学で、**ガイドラインの解釈が間違っていたり、規定の不備**が見受けられました。さらに、書面調査だけでは確認不十分と判断し、**現地調査や、面接調査を実施しなければならない**大学も見受けられました。

好事例も含めて文部科学省のホームページに結果を掲載していますので、令和元年度の履行状況調査結果の御確認をお願い致します。

○機動調査

「緊急・臨時の案件が発生した場合に機動的に対応し、当該案件の関係機関におけるガイドラインに基づく体制整備・運用の状況について把握することを目的として文部科学省が実施する調査」を今年度、3大学に対して実施していますので、機動調査結果の御確認を御願致します。

・【履行状況調査等の調査結果】と【機動調査結果】のURL

https://www.mext.go.jp/a_menu/kansa/houkoku/1355852.htm

文部科学省 研究振興局
振興企画課 競争的資金調整室

- ・直通電話：03－6734－4014
- ・E-mail：kenkyuhi@mext.go.jp

競争的資金調整室では、各機関のガイドラインに基づく体制整備等全般に関する相談を実施しています。
各機関において、体制整備・関係規程の制定・見直しに関する検討等に際してご質問・ご相談がある場合は、お問い合わせください。

○適切な運用が行われているか再確認

「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」に基づき、公的研究費の執行に関する規則等を各機関にて整備していただいているところですが、**運用面の不備**が遠因となり、研究費不正につながった事例が見受けられます。今一度、下記について確認を御願います。

- ・コンプライアンス教育**未受講者への適切なフォローアップ**を行うこと
- ・**不正防止計画の実施・報告**や**適切な見直し**を行うこと
- ・ハンドブック等の適切な改訂により、機関の**執行ルール**を関係者全員へ正確に把握させること
- ・非常勤雇用者(学生含む)の勤務状況確認等の雇用管理について、**研究室任せにならないよう**、事務部門が採用時や定期的に、面談や勤務条件の説明、出勤簿・勤務内容の確認を行うこと
- ・「研究費を年度内に使い切れずに返還しても、**その後の採択等に悪影響はないこと**」に関して、定期的・明確に周知すること
- ・対象者を適切に把握し、競争的資金等の運営・管理に関わる**全ての構成員から誓約書**を徴収すること
- ・対象業者を適切に選定し、**取引業者に対して不正行為に関与しない旨を明記した誓約書**を徴収すること
- ・発注業務は、**原則事務部門**が行うこと
- ・**教員発注や、立替払い制度には上限額等の明確な基準**を設けること

○内部監査結果の周知、その後の改善対応

昨今の研究費不正発生機関では、内部監査にて同じ指摘事項が繰り返されている傾向があります。管理機能の強化につながる「内部監査」の結果を、構成員全員が共有し、指摘事項を改善するよう取り組んでください。

○内部監査の結果の分析

内部監査結果を有効活用し、機関の実態に即して、不正が発生する要因を分析し重点的かつ機動的な監査を実施し、恒常的に組織的牽制機能の充実・強化を図ることが必要です。内部監査を機に、見えてきた指摘事項に対して、業務改善を含む不正防止策を提案、実施までフォローアップしてください。例えば以下の様な分析を行うことで機関の実態に即したリスクが把握可能です。

- ・押印漏れ、日付未記入等のミスの発生件数を確認
- ・ミスが多い部署の原因を考える
(例 特定の人物、決裁ルート of 形骸化、空調・照明などの職場環境)
- ・ミスの対策を講じる
(例 人員配置、決裁ルート見直し、職場環境改善)
- ・ミスのない部署の好事例を横展開する
- ・部署毎に異なる執行ルールを統一する (例 〆切、様式)